

# 会報

全国公立学校退職教頭会

第75号  
特別編集

## 都県支部への緊急支援強化

代議員会は、当面、休眠化

全国公立学校退職教頭会

会長 山浦 朝日

「桃栗三年、コロナは四年」という言葉を、パンデミックが始まった折に、新聞で読みました。単なる言葉遊びだと読み流していましたが、今は、物を見る目のある人の表現だったのだと思っています。

秋田大会で顔を合わせたのは、令和元年の五月でした。その後は、会計文書や会報を通しての「紙上代議員会」が続いています。前号では、「再会を期待する」と書きましたけれど、諸般の状況を見渡すと、無理をすべきではない、という考え方に変わってきました。

まず、「東京を始め全国のコロナ感染状況」です。パンデミック当初は、三桁の感染者数で恐れおのいていました。慣れとは恐ろしいものです。五桁を経験した後は、四桁を安全になったと感じています。連日、前週を超える人が感染し続けている状況

を「安全・安心」と判断しているわけです。そして、七月中旬、第七波が押し寄せてきました。ワクチンについても、その効果は「感染を防ぐこと」より「重症化を防ぐこと」に限られるようです。医学界では、インフルエンザ並みに毎年接種する方法が検討されています。現実としては、既に四回目の接種も始まっています。

次に、「会長・役員の高齢化」の問題です。加齢に伴う、体調変化なども見逃せません。とは言え、秋田大会からの三年間で、十五支部中九支部で会長が交代しました。このことにより、新機軸による支部活動の活性化が期待できる希望もあります。

昨年度「令和四年度代議員会参加予定予備調査」をお願いしたところ、「ご自身の判断による欠席」と「家族の反対による欠席」が、代議員数のほぼ半数となっていました。現状は、さらに厳しいでしょう。

このような状況下で、全退教の活動をどのように進めていくかを考える時は、頭と心のアンテナを高く掲げて、身は、「果ごもり」することが望まれます。

① 各都県支部は、会員とのつながりを保ち続けるため通信活動を積極的に行うこと、特に「支部会報」を活かす必要があります。本部は、支部の財政状況などを見据え、緊急事態と判断した場合には、各都県支部を支える手立てを講じます。

② 本部は、各都県支部と本部とのつながりを保ち続けるため「会報」「教育徒然集」の発行は行おうが、代議員会は、コロナ感染の鎮静化がない限り、当面、休眠化します。

③ 情報交換は、「会報」等によっても可能ですが、「対面と対話」の大切さも充分に分かっています。各ブロック大会に、本部役員が手分けして参加し、交代した新会長との交流を深めるのも一案であると考えています。

代議員会の休眠化は、「叙勲要請活動」にとって不利になると思われる会員もいることと思います。しかしながら、叙勲要請活動は、本部が代議員会において叙勲対象候補者を集約した上で決定し、まとめて文部科学省に要請するという流れではありません。あくまでも、各都県の教育委員会による推薦が基本となります。各都県支部が当該教育委員会に働きかける活動が最も重要な動きとなります。

また、念のためですが、毎年分担任いただく「会費」と臨時的「支部活動援助金」とは、別勘定になるため、今後とも「相殺方式(会費から援助金額を差し引く方法)」は考えておりません。

最後に、全退教が多くの困難を抱えている現況は、組織としての存在意義と組織の運営方法について、深く・真剣に考えを巡らすことを、私たちに、求めています。各都県支部においても、密なる意見交換をよろしくお願いいたします。



ハスの花



【会計のコメント】 3年連続の代議員会中止(本部役員会もリモート中)に伴い、決算書と予算書を代議員28(含む監事2)名に書面で承認いただきました。年会費も500円に決定。また、差引残高の黒字により、運営資金で補填していた5年間の累積赤字100万円超は、2年間で約半額を(支部活動援助金を支出してもなお)返済できました。運営資金の取扱が、今後の検討課題です。

令和3年度 全国公立学校退職教頭会 会計決算報告書				令和4年 3月31日現在	
1. 収入の部				単位:円	
	項目	予算額	決算額	増減額	備考
1	会費	650,000	623,500	▲ 26,500	1,247名
	(収入内訳)		595,000		支部納入分 1,190名
			27,500		個人会員分 55名
			1,000		督促納入分(個人) 2名
F	運営資金	200,000	200,000	0	運営資金の予算化(取崩)
2	雑収入	0	0	0	振替口座は無利子のため
	合計	850,000	823,500	▲ 26,500	…B
2. 支出の部				単位:円	
	項目	予算額	決算額	残額	備考
1	代議員会費	280,000	176,527	103,473	支部活動援助金(14支部)送付等
2	役員会費	160,000	35,000	125,000	会報等編集手当、対面役員会旅費等
3	事務所費	90,000	68,086	21,914	用紙、封筒、インク、事務局長手当等
4	単位会連絡費	20,000	9,815	10,185	支部や個人会員との連絡等
5	研修活動費	240,000	118,271	121,729	会報72・73号、徒然集の印刷・送付等
6	要請活動費	5,000	0	5,000	コロナ禍に伴い活動ナシ
7	印刷通信費	5,000	370	4,630	役員会内部資料送付
8	渉外費	40,000	40,000	0	会長渉外費
9	予備費	10,000	10,000	0	現職県支部会長の逝去に伴うご霊前
	合計	850,000	458,069	391,931	…A
3. 差引残高(運営資金積立金)					
A支出残額 - B収入減額 = 391,931円 - 26,500円 = 365,431円……………C					
4. 運営資金の部					
2年度末現在高(前年度よりの繰越金) 3,675,286円…D					
運営資金口座に対する利息 30円…E					
令和3年度末残高(令和4年度への繰越金)					
< D前年度繰越金 + E利息 + C差引残高 - F運営資金取崩 >					
◎ 上記の通り、報告いたします。 3,840,747円					
令和4年5月19日					
会計 西川 順 ㊟					
大西 規子 ㊟					

令和4年度 全国公立学校退職教頭会 会計予算(案)				令和4年 5月19日	
1. 収入の部				単位:円	
	項目	予算額	説明	備考	
1	会費	600,000	500 × 1,200名	前年度納入実績基準で	
2	運営資金	200,000		運営資金の予算化	
3	雑収入	0	振替口座は無利子のため		
	合計	800,000			
2. 支出の部				単位:円	
	項目	予算額	説明	対前年度比	
1	代議員会費	260,000	会場費、補助金、資料印刷等	20,000 減	
2	役員会費	140,000	役員会旅費、会合費等	20,000 減	
3	事務所費	90,000	事務局長手当、文具類等		
4	単位会連絡費	20,000	支部連絡、未組織県会員連絡等		
5	研修活動費	230,000	会報・教育徒然集の編集・印刷・発送	10,000 減	
6	要請活動費	5,000	文部科学省、関係議員訪問等		
7	印刷通信費	5,000	電話、郵券、コピー、用紙類等		
8	渉外費	40,000	会長渉外費		
9	予備費	10,000	慶弔レタックス等		
	合計	800,000		50,000 減	
3. 運営資金の部					
X 前年度繰越金 3,840,747円					
Y 運営資金利息 15円(令和4年4/1)					
Z 運営資金取崩 200,000円(一般会計に充当)					
差引残高(X + Y - Z) 3,640,762円					

令和 4 年度 組 織 表 (案)

NO	役 員	氏 名
1	顧問 (全公教会長)	漆崎 英二
2	顧 問	中込 武夫
3	顧 問	荻野 由男
4	会 長	山浦 朝日
5	副 会 長	河田 龍夫
6	副 会 長	福岡 健
7	事 務 局 長	須山 道雄
8	会 計	西川 順
9	会 計	大西 規子
10	庶 務	相原 一矢
11	庶 務	吉田 一義
12	庶 務	松島 健治
1	北海道地区理事	未選出
2	東北地区理事	未選出
3	関東甲信越地区理事	未選出
4	東海北陸地区理事	岡 英昭
5	近畿地区理事	三谷 誠一
6	中国地区理事	未選出
7	四国地区理事	未選出
8	九州地区理事	未選出
K1	監 事 (東)	小田木 好
K2	監 事 (西)	土谷 一治
1	会長・代議員 事務局長 事務局	工藤 英胤 柴田 文平 柴田 文平
2	会長・代議員 事務局長 事務局	富田 和志 西坂 敏夫 安齊 博喜
3	会長・代議員 事務局長 事務局	黛 典周 塚越 昭平 塚越 昭平
4	会長・代議員 事務局長 事務局	高松 泉 吉田 一義 吉田 一義
5	会長・代議員 事務局長 事務局	松島 健治 小出 統英 小出 統英
6	会長・代議員 事務局長 事務局	深澤 孝俊 豊田 勝宏 豊田 勝宏

NO	役 員	氏 名
7	会長・代議員 事務局長 事務局	松橋 慎吾 山田 和一 山田 和一
8	会長・代議員 事務局長 事務局	
9	会長・代議員 事務局長 事務局	岡 英昭 濱政 敬能 黒田 敦子
10	会長・代議員 事務局長 事務局	三谷 誠一
11	会長・代議員 事務局長 事務局	梅原 桂子 黒瀬 敏彦 田邊 由喜
12	会長・代議員 事務局長 事務局	上野 雅昭 藤原 幸治 藤原 幸治
13	会長・代議員 事務局長 事務局	一宮 芳雄 岡崎 範生 森本 園枝
14	会長・代議員 事務局長 事務局	大石 正
15	会長・代議員 事務局長 事務局	池田ミヤ子 福井 正 福井 正
16	会長・代議員 事務局長 事務局	中山 晃子 吉住 次郎 吉岡 和博

個人会員の世話人

NO	役 職	氏 名
1	新潟県世話人	松崎 圭四
2	奈良県世話人	未選出

個人会員のいる道府県

北海道、青森県、岩手県、栃木県、茨城県、埼玉県、神奈川県、千葉県、新潟県、愛知県、奈良県、京都府、滋賀県、和歌山県、大阪府、福井県、鳥取県、島根県、大分県 (19 道府県)

会報等の送付における追加部数について

- ・ 100 名以上 + 15
- ・ 50 ~ 99 名 + 10
- ・ 50 名未満 + 5
- ・ 休会支部 + 3
- ・ 福島県 (東日本大震災対応) + 20

時間を作って 全退教のホームページを見てく  
ださい。スマホでも見られます。  
Zenkoukyo fc2 か 全国公立学校退職教頭会で  
検索してください。



事務局便り

事務局長 須山道雄

七月に、今年も代議員会を中止しますと、支部の会長様方にお知らせいたしました。これで、代議員会は三年間中止となりました。

本部では、今年こそは代議員会を開催したいと考えておりました。六月には、コロナも落ち着き、このままであってほしいと願っていた矢先、突然に「第七波」となる新型コロナウイルスの感染爆発が発生し、やむなく今回も代議員会を中止せざるをえないということになってしまいました。まことに、残念な限りです。

コロナの期間、支部では様々な活動を工夫して組織の活性化を図っている姿を会報などを通して見せていただきました。そこで、困難にもめげず努力しているという思いを抱かせていただきました。

しかし、これまでに、会員減少でやめる支部や、組織としての意義を見いだせないとして解散する支部も現れました。

たしかに、組織なので大きな目標をもつことは必要ですが、小さな目標であっても組織としての意義があると思います。私たちの組織は、あまりに高い目標をもつと続きません。たとえば、「組織として維持できている」というような小さな目標でも組織としての意義だと捉えることができると思います。

以前、代議員会で、団体(組織)としての定義をお話したことがあります。

組織は、二人以上で成立するのです。目標を大らかに捉え、コロナ禍の中でも互いに頑張ってもらいましょう。

研究・研修部より

須山道雄

「会報七五号」をお届けいたします。「教育徒然集」(第七集)は、現在発行に向けて、更に原稿の依頼をお願いしております。左の募集要項をご覧ください。

「教育徒然集」は、発行を積み重ねるにつれ、原稿応募が少なくなっております。形式にこだわらず、短い原稿でも結構です。積極的に原稿をお寄せください。よろしくお願いいたします。

「教育徒然集」の原稿を募集しています

「教育徒然集」(第七集)の発行に向けて、各会員の皆様からの原稿を募集しています。現在、届いている原稿は僅かです。ぜひ、奮って原稿をお寄せください。内容等は左記の通りですので、ご協力のほどお願いいたします。

記

【原稿の題材】

あ の とき、いまどき、そして、これから

【原稿で取り上げてほしい内容】

☆コロナを通して学んだこと ☆感染症発生時の教育のあり方 ☆教育ボランティアで手伝ったこと ☆かつて教員・教頭として携わった中で感じた教育雑感など

【原稿形式】

☆形式は、四十字×三五行(千字)〈内、二行は、題名・執筆者名〉ですが、形式にこだわらず、短い原稿でも結構です。横書きでお願いします。

【原稿提出期限】

令和四年十月末日

【原稿提出先】

須山 道雄 (研究・研修部長)

訃報のお知らせ

松岡睦彦様のご逝去に接し心よりお悔やみ申し上げます長年にわたる全国公立学校退職教頭会でのご功労に敬意を表しますとともに心からご冥福をお祈りいたします



全国公立学校退職教頭会  
会長 山浦 朝日

【題字】 静岡県公立小中学校退職教頭会

前会長 長屋 梅子氏揮毫

全国公立学校退職教頭会

〒一〇五・〇〇〇二

東京都港区愛宕一六七七

愛宕山弁護士ビル四〇三号

発行責任者 会長 山浦 朝日